



—平成 24 年度の全国大会にむけて—

第 51 回全国学校体育研究大会北海道大会実行委員会
事務局長 松井光一

平成 24 年 10 月 25 日（木）・26 日（金）の 2 日間に渡り、第 51 回全国学校体育研究大会が、札幌市を中心に北海道で開催されます。北海道にとっては、平成 2 年度・平成 14 年度に続き、実に 3 回目となる体育研究の全国大会です。

平成 22 年度、2 回の全国大会開催に向けた準備委員会を経て、平成 23 年 5 月 23 日に第 1 回の第 51 回全国学校体育研究大会北海道大会実行委員会が発足しました。

その後の各部長会や各部会の論議を受け、本大会を「子どもたちが自ら進んで運動やスポーツに親しむ資質や能力を身に付け、体力の向上とともに健康な生活を実践することができるよう、教育関係者及び体育・スポーツ研究者等が一堂に会し、公開授業・保育、研究発表、シンポジウムを通して、これからの学校体育の充実方策について研究協議を行うもの」と位置付けました。

そこで、本大会における研究主題を、発達の段階を考慮し、心と体をより一体とした指導および実生活や実社会に生きる指導の充実を図ることが、生涯にわたって生き生きと運動・スポーツに親しむ子どもの育成につながると考えるとともに、新学習指導要領の趣旨とこれまでの北海道の体育研究の成果を踏まえ、「**未来へつなぐ健やかな心と体をはぐくむ体育学習の充実—授業から日常へ、授業から未来へ—**」と設定しました。

第 1 日目は、全体会を北海道立総合体育センター「北海きたえーる（愛称）」で行います。午前中は開会式、全国学校体育研究優良校・功労者の表彰式、基調報告を行い、昼食休憩時には、公開演技として、「よさこいソーラン（平岸天神）」と「新体操（北海道恵庭南高等学校）」の発表を予定しています。

午後は、文部科学省教科調査官による「解説」、指導と評価の一体化を目指した授業づくりについて話し合う「シンポジウム」、そして「特別講演（講演者 東海大学教授 山下泰裕氏）」を設定しております。

第 2 日目は、下記に示す、幼稚園 1 園、小学校 4 校、中学校 3 校、高等学校 2 校、特別支援学校 1 校の合計 11 会場で、授業と分科会が行われます。

小学校・中学校の分科会場においては、授業だけではなく、北海道学校体育研究連盟各 14 支部から、研究発表を募り、全国大会にて発表をしていくことになっております。

分科会場—幼 稚 園	第 1 分科会	札幌市立白楊幼稚園	
小 学 校	第 2 分科会	札幌市立白楊小学校	第 3 分科会 札幌市立宮の森小学校
	第 4 分科会	札幌市立福住小学校	第 5 分科会 札幌市立資生館小学校
中 学 校	第 6 分科会	札幌市立上野幌中学校	第 7 分科会 札幌市立月寒中学校
	第 8 分科会	札幌市立向陵中学校	
高 等 学 校	第 9 分科会	北海道恵庭南高等学校	第 10 分科会 北海道北広島高等学校
特別支援学校	第 11 分科会	札幌市立豊明高等養護学校	

第 1 回実行委員会の後、平成 23 年 7 月には、幼稚園の保育と小学校のフラッグフットボールの授業を公開し、日本体育大学高橋健夫先生にご指導をいただきました。また、10 月には、中学校の 1 年男女共修の柔道の授業を、文部科学省石川泰成教科調査官に見ていただきご指導をいただきました。さらに、12 月 2・3 日には、全国大会プレ大会として小学校体づくり運動の授業を文部科学省白旗和也教科調査官、筑波大学岡出美則先生にご指導をいただきました。加えて、平成 24 年 1 月 12 日には、高等学校授業校の先生方が、早稲田大学友添秀則先生にご指導をいただきました。日本のトップレベルの先生方のご指導をいただき、大会の成功に向けてさらなる意欲をもつことができました。

さて、実行委員会では本大会を成功させるために、北海道学校体育研究連盟を中心に、教育関係者及び体育・スポーツ研究者等がひとつにまとまっていくための合い言葉をつくりました。それが、「**北海 DO! Plus One ~ (ほっかいどうプラスワン)**」です。過去 2 回の全国学校体育研究大会北海道大会で積み上げてきた成果や今一人一人ができることに、「プラスワン」をしていこうという意気込みを示したものです。

平成 23 年度の全国学校体育研究大会長野大会に参加したり、北海道学校体育研究連盟の会議や研究に参加したりして、自らの体育実践を深めており、全国学校体育研究大会北海道大会の成功を目指しています。

是非本番の大会におきまして、皆様に北海道の子どもたちの姿、体育関係者のがんばりを見ていただきご指導をいただければ幸いです。